

目指す学校像	「自主・自律・創造」の校訓のもと、生徒の「生きる力」を育み、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材を育成する。
--------	--

重点目標	1 主体的な学習態度を育てるとともに授業の質を向上させ、確かな学力を身に付けさせる。 2 理数科教育の推進を起点とし生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路実現を支援する。 3 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 4 地域から信頼される学校づくりを推進すると共に、国際社会へ開かれた学校へと発展させる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価					
年 度	目 標	年 度 評 価	年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○進学校としての教育の根幹である生徒の主体的・計画的な学習姿勢育成と生徒の学習量確保は満足できる状況にない。生徒の学習法の確立と自学力向上のため、「科学的理論に基づいた効果的な学習法」を学ばせ、同時に「学習の記録」の活用により、学習計画に基づいて学習時間を確保する必要がある。 ○行事の精選、土曜授業や7限授業の実施など授業時間を確保した。しかし、保護者の学習指導満足度は52%、生徒で「授業の7～8割程度が理解できた」とする生徒の割合が47%であり、一時間一時間の授業の質の向上が必要である。さいたま市教育委員会からの「教えて考えさせる授業」研究推進校指定などの機会を積極的に活かし、教員の意識を一新し、授業の手法を学ぶと同時に、研修などによる互いに組織的に「授業力の向上」を進める取組を実施する。 ○全HR教室に電子黒板が配置され、生徒用のタブレット端末も整備された。これからは、ICTを活用し、生徒に適切に知識・情報を伝えると同時に、生徒の能動的・活動的な学習、アクティブラーニングを積極的に研究・展開する必要がある。	学習法の確立と自学力の育成 授業力の向上 ICTの活用	①「SS科学総合」で、科学的理論に基づいた効果的な学習を継続的に実施する。 ②「学習の記録」を一層活用し、生徒の計画的学習と時間管理能力を育成する。 ③朝、夕の自習室や図書室の利用を促進し、生徒の学習支援を強化する。 ①「教えて考えさせる授業」推進委員会を中心に、モデル授業の研究や、各教科で校内研究授業を実施することで、授業研究を計画的に推進する。 ②「合同授業研究協議会」を実施し、県内外の教員から、新たな指導の視点や実践の情報を収集し、授業改善に反映する。 ③授業アンケートを改善し、その結果を適切にフィードバックする。 ①ICTを活用した授業について研修を実施し、授業に反映する。 ②他校訪問で、先進的な取組、堅実な取組などの実践例を集め、教員で共有する。 ③班別学習や発表など生徒が主体的に意見交換などを行う授業を展開する。	①学習法研究の東京大学市川教授を迎えて学習会を実施できたか。 ①SS科学総合の授業で、生徒が、学習法に基づいた学習スタイルを確立したか。 ②生徒が「学年+1時間」の家庭学習時間を確保し、予習と復習を実践したか。 ③自習室を活発に利用されたか。 ①モデル授業について研修を実施したか。 ①全教科で研究授業を実施したか。 ②合同授業研究協議会を開けたか。 ③要望等を検討して授業改善に活かし、その内容を生徒・保護者に提示したか。 ③「授業の7～8割程度が理解できた」とする生徒が8割を超えたか。また、保護者の学習指導満足度が7割を超えたか。 ①ICT活用についての研修により、全教員が授業に活用できたか。 ②校外の実践例などを計画的に収集し、全教員に提示できたか。 ③生徒が意見や調べた内容を、電子黒板などを利用し、互いに発表できたか。	○生徒に対して効果的な学習法を身に付ける機会を与えることができた。生徒の学習姿勢と学習習慣についても徐々に高まりを見せているが、一層意識を高める必要がある。 ①市川教授を迎えて学習講演会を実施し、授業SS科学総合でも学習法を学ばせた。 ②予習と復習については、継続して指導する必要がある。 ③ICTラーニンググループも整備され、自習室の利用は進んでいる。 ○「教えて考えさせる授業」研究協議会などを通して全教員が研修を進めた。また、授業アンケートを実施し、生徒の満足度などを個々の教員が把握し、授業改善に活かした。「教えて考えさせる授業」でのモデル授業を全員で研究し、研修することができた。これ以外にも積極的に公開授業を展開し、授業力向上に取り組んだ。 ①モデル授業を活用した研修会を実施できた。 ②合同研究会のほか、いくつかの公開授業も実施できた。 ③アンケートを実施し、教員に結果を認識させ改善に努めているが、授業満足度は、今後も高めていく必要がある。 ○ICT活用の公開授業なども実施し、教員の意識を高めると同時に外部にその取組を発信することができた。 ①ICT活用の研修会を実施できた。 ②ICT授業の公開時に、他校の教員を含めた研究協議会を実施し、情報収集を進めることができた。 ③修学旅行の事前学習でパワーポイントなどを利用した発表を行うなどの取組を進めた。	B	基本的な課題は、今年度と同様である。来年度も、今年度の取組を基に、さらに改善を進め、生徒の主体的学習を支援する。 ・学習環境を一層整備する。 ・学習法、学習時間を確立する。 ・教授法の研究と互いに磨く姿勢による授業改善する。 ・ICTの効果的活用の研究と実践する。
2	○平成27年度のSSHは不採択であった。平成28年度の採択に向けて準備を進める。 ○理数科開設1年で、校内活動や大学・研究機関との連携、他校とのネットワーク事業などで成果を上げているが、活動を全校レベルに引き上げるには、普通科生徒の行事参加率向上など課題も多い。取組の質を向上し、普通科の生徒の意欲を引き出して積極的参加を促すと同時に、学校全体の雰囲気「知の獲得」に積極的に向かうように学校全体での取組を強化する。 ○生徒入学時の国公立志望は7割を超えているが、実際の国公立大学や難関大学への合格実績は満足できるものではない。生徒が「志」を維持し、実現するために、進路指導部と教科・学年が組織的、計画的にキャリア教育や進学補習を行う必要がある。また、保護者へ情報発信し、家庭で生徒の「志」を支える協力体制づくりが重要である。	理数科の取組を全校に拡大 第一志望の進路実現	①SSH申請の準備を進める。 ②全校で、サタデースペシャルによる継続的な「知の獲得」を図る。 ③科学の甲子園、サイエンスフェアなどの機会に多くの生徒を参加させ、他校の高い意識を持った生徒と交流させる。 ④勉強マラソンをはじめ、普通科の生徒にも学年、教科等から積極的に働きかけ、全校の意識を高める。 ①進路指導部による計画的補習の実施。 ②国公立や私立難関校への粘り強いチャレンジの「志」の育成と、学年・教科が計画的に牽引する指導体制を構築する。 ③保護者向けガイダンス、進路情報発信により、第一志望実現への協力体制を構築する。	①SSHに申請できたか。 ②科学的な興味関心が高まったとする参加生徒が9割を超えたか。 ③科学の甲子園への複数チーム参加など、外部行事への参加者が増加したか。 ③各行事に普通科生徒が参加したか。 ④サタデースペシャルに平均20名以上の普通科生徒が参加したか。 ④勉強マラソンを年5回実施し、参加生徒が全校の5割を超えたか。 ①進路指導部主導により年間補習計画が提示され、実施されたか。 ②志を育てるキャリア教育を実施したか。 ②ICTを活用して模試後の面談などを、組織的に実施したか。 ③保護者向けガイダンスや進路関係の情報発信を適切な時期に実施できたか。 ①～③国公立大学25名以上、難関私立大学100名以上合格したか。	○勉強マラソンなど全校での取組を進め、考査前の学習への切り替え意識などが形成されてきている。数学オリンピックのさいたま会場校になるなど、「知」の中心としての学校の立場なども認識されてきている。SSHにも申請している。 ①SSHに申請した ②アドバイザー講義などでの生徒の満足度は高い。 ③科学の甲子園には、60周年記念事業当日であったにもかかわらず、昨年度の倍の2チームが参加。数学オリンピックでは、参加者が昨年度7名から11名に増加。 ④勉強マラソンは5回実施し、参加は5割を超えた。 ○全体的に成果が上がってきているが、入学当初の国公立希望の割合から見ると、第一志望の進路実現の取組は今後も継続して強力に進めていく必要がある。受験結果については今後明らかになってくる。 ①年間の計画はあるが、生徒個人個人に細やかな調整をしていく必要がある。 ②面談などは実施されている。今後も生徒一人一人が進路について弱気にならないように支える必要がある。 ③保護者向けのガイダンスは、今年度新たに設定したものが数回あり、理解を進めることができた。	A	物事を論理的にとらえ、計画的に取り組む習慣を全校で養う。同時に、情緒面も育て頑張る力、希望を実現する力なども身につけさせる。 ・理数系の興味関心や思考力を高める。 ・知を高めるため、理系、文系の色々なコンテンツや検定などに挑戦させる。 ・色々な文章や芸術に触れさせ、感性を養う。 ・夢を実現する精神力を身につけさせる。
3	○服装指導などにより、学校の雰囲気は落ち着いたものとなっている。今後「品格」をさらに高める。また、「自転車マナーアップ推進校」としての安全指導をはじめ、生徒が健全に学習に取り組める環境作りを進める。 ○部活動や行事とおして、協調性や人間性を高める。また、教育相談体制を充実させ、生徒を心身ともに健全に育てあげる。	品格の向上と健全・安全な学習環境の整備 心身ともに健全な生徒の育成	①生徒会や風紀委員の取組により、全校の規範意識、品格を高める。 ②大宮警察との連携で、交通ルール遵守や交通安全意識を高める。 ③携帯電話やスマートフォンのマナー等を学習させ、自律管理できるようにする。 ①学習と部活動・学校行事が両立できるスケジュール管理等を指導する。 ②教育相談委員会とスクールカウンセラーとの連携により教育相談を充実させる。	①生徒の活動により、服装規定遵守や遅刻者減少の気運が高まったか。 ②交通安全意識が高まり、マナーアップすることで交通事故件数を0にできたか。 ③携帯電話やインターネットについての講演会や、使用マナー指導を実施したか。 ①学校行事や部活動に積極的かつ計画的に取り組めるよう指導できたか。 ①新入生の部活動加入率9割を超えたか。 ②教育相談を積極的に活用ができたか。	○良いことと悪いこと、時間と場所を踏まえた行動など校訓にある「自律」の精神を養うべく力を入れた。残念ながら、交通事故を無くすことはできなかったが、大きな事故はなかった。 ①式典などの服装でも、落ち着いた様子が見られる。 ②交通事故を無くすべく、指導を続ける必要がある。 ③マナー講演会を実施。日常の使用についても指導した。 ○生徒が行事や部活動に積極的に取り組める環境は整備されている。また、教育相談などの仕組みも整っている。 ①生徒は、行事、部活に真直ぐ取り組み、満足度も高い。 ②海外修学旅行などの行事などで事前にカウンセリングを進めるなど、成果がみられている。	B	社会人としての規範意識、思いやりの心などを養う。人生をしっかりと生きる基本を身につけさせる。 ・自律の精神と社会人としての素養をさらに身につけさせる。 ・主権者教育も進める。
4	○学校説明会での説明だけでは、中学生が本校教育を感じ、理解してもらうには不十分である。「体験入学」や小中への「アウトリーチ活動」をさらに展開し、地域の学校理科教育の拠点校の役割を果たし、同時に本校志望者を増加させる。 ○世界で活躍する人材育成の観点から、平成26年度から「海外サイエンス研修」、平成27年度から「海外修学旅行」を実施、さらに国際社会へ開かれた授業や海外交流事業、交換留学なども推進して、「タフなグローバル人材」を輩出する。	小中学生への教育活動の積極的発信 タフなグローバル人材の育成	①教務部生徒募集係を設置し、組織的な情報発信や、学校説明会の充実を進める。 ②普通科においても体験入学を実施する。 ③小中の要望を把握し、新たな取組を検討・実施する。 ①海外修学旅行を効果的に実施する。 ②海外サイエンス研修、姉妹校交流、交換留学等の国際交流を積極的に実施する。 ③科学英語講座や国際関係の講演等で、継続的に語学力や国際感覚を向上させる。	①中学校、塾関係者等への広報活動が、全員の協力のもとで実施できたか。 ②普通科5教科の体験授業を実施できたか。 ③アウトリーチで、本校生、小・中学校生それぞれの満足度が9割を超えたか。 ①～③志願倍率が増加したか。 ①海外修学旅行は、順調に進められたか。 ②海外サイエンス研修、姉妹校への派遣と受け入れ等の事業を実施できたか。 ③科学英語講座受講者等が、英語でのプレゼンテーション力を獲得・実践したか。	○学校説明会などのほか、地域の商業施設での学校紹介や小中学校へのアウトリーチ活動など、積極的な発信を進めた。入学者選抜での倍率も高く、効果が実感できた。 ①学校全体で中学校訪問などを実施した。 ②ほとんどのアウトリーチ参加者が活動を評価している。新聞やテレビにも取り上げられ、その点でも活動が評価されている。 ○初めての海外修学旅行は安全に事故等なく実施できた。生徒の国際意識も高まり、評判が良い。その他のグローバル化の取り組みも順調に進められた。 ①海外修学旅行は効果的に実施された。 ②海外派遣事業を実施。海外サイエンス研修は準備中。 ③科学英語講座の纏めとしてポスターセッションを実施。	A	地域や世界の中での大宮北高校を意識し、生徒にもそれを浸透させ、活躍する人材を育成する。 ・外部への活動を精選し、レベルを高める。 ・行事の内容を磨き、生徒のグローバル意識を一層高める。

学校関係者評価	実施日平成28年3月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○ICTラーニンググループなど、協力できることは、これからも積極的にかかわってほしい。 ○生徒のやる気を高め、学習を導くことは大切である。具体的な学習法を伝え、適切な指導をさらに検討し、今後も進めてほしい。 ○理数科の取組は大変だったが、面白いことも多かった。この体験を大切にしたい。 ○知的な挑戦を楽しく思うそんな土壌づくりを今後も進めてほしい。 ○SSHに認められたら、学校全体で一層レベルの高い取り組みを進めてほしい。 ○安全で安心できる学校環境を一層整備してほしい。 ○数年前と比べ、学校全体が落ち着いたようである。 ○生徒一人一人に向き合っ、大切に指導に一層力を入れてほしい。 ○地域での教育という視点で今後も頑張ってもらいたい。 ○修学旅行は得るものが多かったようだが、さらにすばらしいものにしてほしい。